

科目名称:ソーシャルワーク論 I					
担当者名:三和直人					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	選択	2	社会福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		14214001
授業概要:ソーシャルワーク論I・IIを通して、ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方と、ソーシャルワーク専門職であるソーシャルワーカーの実践の特徴について講義を行う。ソーシャルワーク論Iでは、①ソーシャルワーカーの実践の実際、②ソーシャルワークの概念、③ソーシャルワークの原理、④ソーシャルワークの理念、の4つの事項を取り扱う。					
到達目標:①ソーシャルワーク実践の概要とその特徴について理解できる。 ②ソーシャルワークの概念について理解できる。 ③ソーシャルワークの原理について理解できる。 ④ソーシャルワークの理念について理解できる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 オリエンテーション: 本学でのソーシャルワークの学びの全体像			『シラバス』にて、「ソーシャルワーク論」、「ソーシャルワーク演習」、「ソーシャルワーク実習」のシラバスに目を通しておくこと。(30)		
第2回 わが国のソーシャルワーク実践の実際: 高齢者・障害者・児童・医療・地域・公的扶助 分野			各々の持つソーシャルワーク像及びソーシャルワーカー像を整理しておくこと。(30)		
第3回 社会福祉士の法的位置づけ			テキストのp2~14を読んでおくこと。(60)		
第4回 ソーシャルワーク実践の特徴(事例を通じて)			テキストのp23~35を読んでおくこと。(60)		
第5回 ソーシャルワークのグローバル定義			テキストのp52~67を読んでおくこと。(60)		
第6回 ソーシャルワークの構成要素(1)「クライアント」と「ニーズ」			テキストのp68~73を読んでおくこと。(60)		
第7回 ソーシャルワークの構成要素(2)「ソーシャルワーカー」と「社会資源」			テキストのp73~83を読んでおくこと。(60)		
第8回 ソーシャルワークの原理(1)「社会正義」と「人権尊重」			テキストのp86~94を読んでおくこと。(60)		
第9回 ソーシャルワークの原理(2)「集団的責任」と「多様性の尊重」			テキストのp94~102を読んでおくこと。(60)		
第10回 ソーシャルワークの理念(1)「当事者主権」と「尊厳の保持」			テキストのp103~108を読んでおくこと。(60)		
第11回 ソーシャルワークの理念(2)「権利擁護」とその実践事例 ~ オンブズパーソン~			テキストのp108~109を読んでおくこと。(60)		
第12回 ソーシャルワークの理念(3)「自立支援」			テキストのp109~111を読んでおくこと。(60)		
第13回 ソーシャルワークの理念(4)「エンパワメント」と「ノーマライゼーション」			テキストのp111~116を読んでおくこと。(60)		
第14回 ソーシャルワークの理念(5)「ソーシャルインクルージョン」			テキストのp116~118を読んでおくこと。(60)		
第15回 まとめ			第1回から第14回までの授業内容について、ノート・資料等を見直しておくこと。(120)		
履修に必要な予備知識や技能:現代社会が抱える問題状況について、新聞やテレビ等から幅広く情報を収集しておくこと。また授業で理解したことを文章で端的に表現できる力を身につけておくことが望ましい。					
課題に対するフィードバック:毎回提出のコメントカードの記載内容について、次回授業のはじめの時間を使って講評を行う。					
評価方法・基準:定期試験、及び毎回提出のコメントカードの記載内容を点数化して評価する。 (定期試験 70% コメントカード記載内容 30%)					
教科書:『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規出版 ・毎回の授業は教科書の記述の解説を中心に進める。					
備考:					
実務経験の内容・期間:社会福祉士 18年(病院の医療ソーシャルワーカー5年、児童相談所の児童福祉司4年、福祉事務所の現業員6年、福祉事務所の老人福祉指導主事3年)					